

エボラへの対応

国連開発計画(UNDP)



Empowered lives.
Resilient nations.

課題

西アフリカでのエボラ出血熱(EVD)の流行は、保健上の緊急事態として、破壊的な影響を与えているだけでなく、緊迫した社会経済危機にも発展し、長期的な開発への影響も大きくなっています。

エボラへの対応経験がなく、しかも、長年にわたる紛争や情勢不安から立ち直りつつあった国々では、この病気の発生が、国内の医療機関の機能を麻痺させています。

エボラ・ウィルスの影響は、ウィルス制圧後も長く続き、最も貧しく、最も社会的に弱い数百万人、特に女性と若者に不当に大きな被害を及ぼす恐れがあると考えられています。



モンロビア(リベリア)で、職場に向かうエボラ対応要員
写真: Morgana Wingard/UNDP

これまでのエボラによる死者のうち、55%から 60%が女性です。女性は家庭でのケアの担い手であるだけでなく、看護師や清掃員、医療補助員として、保健サービスの前線で働いているからです。

学校は数か月前から閉鎖されているほか、地域貿易や農業生産も減速しています。ミレニアム開発目標(MDGs)の達成に向けた前進が、中断する恐れも出てきました。

UNDPの概算によると、過去15年間に達成された家計所得の改善が逆戻りし、2014年10月までにリベリアで35%、シエラレオネで29.7%、ギニアで12.7%の低下が見られています。

何年にも及ぶ平和と開発面での成果を守り、これら3か国が今回そして将来の危機を乗り越える手助けをするためには、危機がもたらした社会経済的影響に速やかに対処することが欠かせません。

UNDP の対応

UNDP は、エボラ対策を強化し、その影響を緩和するため、ギニア、リベリア、シエラレオネの3か国において、プログラムと予算の再調整を行いました。これによりUNDPは、エボラの流行を封じ込める取り組みの支援と、影響を受けた国々、コミュニティ、個人の迅速かつ持続可能な立ち直りの確保という、2分野に尽力しています。

UNDP のエボラ危機対応・強靱化プログラム(ECRRP)は、国連エボラ緊急対応ミッション(UNMEER)や、より幅広い国連システムとの密接なパートナーシップにより、次の3点の達成を図ります。

エボラへの即時対応の調整と、そのために不可欠なサービス提供の強化

エボラが及ぼすジェンダー固有の影響への取り組みに重点を置くことを含めてエボラ対策へのコミュニティの関与と強化

最も深刻な影響を受けている人々を対象とした緊急雇用と連帯・事業立ち上げ支援策、国とコミュニティが原状回復だけでなく、その改善も目指す「ビルド・バック・ベター」計画に対する支援を通じた、エボラの社会経済的影響からの立ち直り

UNDP は、ECRRPの実施費用を6940万ドルと見積もっており、その内訳は、リベリアが2440万ドル、シエラレオネが2850万ドル、ギニアが1650万ドルとなっています。

6940万ドル規模の当該プログラムに対し、UNDP は通常資金(コア資金)から545万ドルを割り当てていますが、未だ6400万ドルが不足しています。

UNDP のエボラ・プログラムは、継続中の「SURGE(緊急危機対応)アクション」による追加的支援も受けています。SURGE アクションは、影響を受けた国々にUNDP 専門家100人以上を緊急配置し、前線での成果を実現する取り組みですが、UNDP はこれに対しても、通常資金から追加的に1270万ドルを割り当てています。

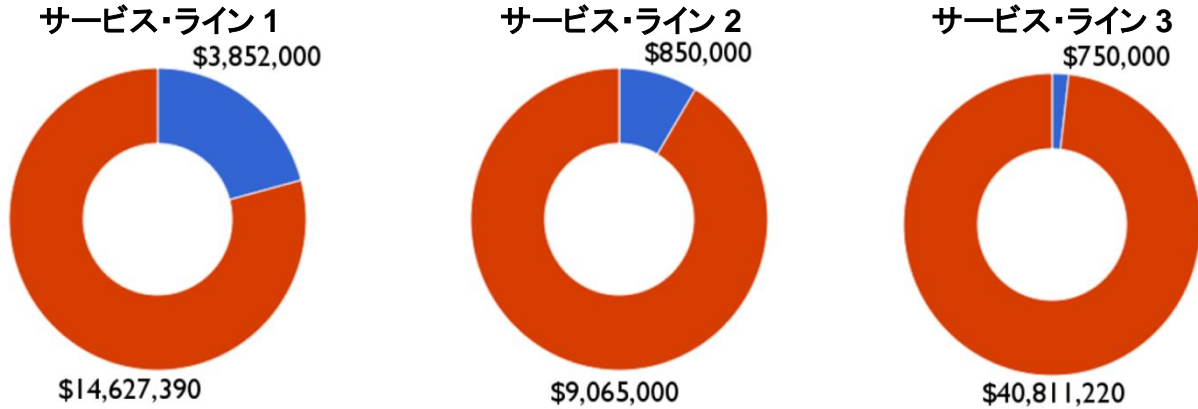
今年、国際援助透明性基準において、上位の開発機関として位置づけられているUNDPは、そのプロジェクトすべてに関する説明・監督責任を果たしていきます。調整の取れた実施、監視、報告を容易にするため、ECRRPは共同の国連開発枠組みに組み込まれています。各プロジェクトは、政治や治安の状況や、国および地域の能力を考慮するリスクマネジメント要素も盛り込んでいます。

現状と数字

- UNDPのエボラ対応に活用可能な追加要員は30人
- ギニアでは、通院者数が53%減少。
- シエラレオネでは、50万人以上がエボラ予防に関するコミュニティの取り組みの対象に
- リベリアでは、接触者追跡とエボラ関連症例の特定を行うボランティア1,182人を養成
- ギニア、リベリア、シエラレオネの損失額は、危機前との比較で3億2800万ドル

UNDP のエボラ対応

■ UNDP が利用できる資金 ■ 不足額



即時対応に向けた調整と不可欠なサービス提供の強化

UNDP は、保健とガバナンスに関するその専門知識を土台に、政府の各省庁、市民社会、その他の国際社会パートナー、各国および地域のエボラ危機調整センターと協力し、エボラ対策の調整、監視、実施を支援します。

エボラと闘うためには、UNDP がいくつかの分野で当局を支援する必要があります。具体的には、機材や物資、インフラの整備を支援すること、治療センター向けの医療機器の調達を支援すること、エボラの蔓延を食い止めるため、国境でのスクリーニング能力を強化すること、コミュニケーションを改善すること、そして刑務所で、観測ユニットの設置を支援し、職員と受刑者に衛生と保護に関する訓練を施すことがあげられます。

UNDP は、予防、治療、健康増進またはリハビリに関する医療サービスを提供するエボラ対策要員への現金支給に関し、UNMEER に対する支援も行います。こうした要員には、医療従事者や接触者追跡担当者、埋葬チームそしてコミュニティの担い手も含まれます。

さらに、UNDP は南南協力の一環として、増え続ける使用済みの治療用品や防護服といった極めて伝染性の高いエボラ関連医療廃棄物を適切に管理するため、環境に配慮した廃棄物管理ユニット(加圧滅菌器)を展開する予定です。

コミュニティの関与強化

UNDP は、感染区域の女性や女兒、若者を含む感染リスクの高い人々に手を差し伸べるため、その経験とネットワークを活かしたエボラ予防キャンペーンを展開しています。

また、一般市民の認識を高めるため、現地のラジオやテレビでの放送、戸別訪問キャンペーン、携帯メールでのメッセージ発信も行います。

UNDP は、エボラのケアと予防に関するアウトリーチおよびメッセージ発信について、コミュニティの担い手や若手リーダー、教員や宗教指導者の訓練を支援するとともに、噂を打ち消し、マイナスイメージを払拭することで、責任ある行動の促進に協力します。



コナクリ(ギニア)で、衛生習慣を実演して回る現地の若者
写真: Nicolas Douillet/UNDP

社会経済的影響からの立ち直り

UNDP の対応は、エボラの影響の緩和と、現地レベルの早期復興・生活再建プログラムに主眼を置いています。その中には、雇用創出・現金報酬プログラムを通じた緊急雇用、現地事業者への少額助成金、影響を受けた世帯を対象とする1年間の月次手当、そして「連帯パッケージ」による必需品の配給といった、多岐にわたる現金支給・補償スキームが含まれています。

UNDP は、社会的セーフティ・ネットや農業、教育制度に関する国家復興戦略の強化、影響を受けた世帯を対象とするバリュー・チェーン、貯蔵施設、食糧生産に関する生活支援の提供、さらに、特に女性団体に配慮しつつ、貯蓄・貸付の取り組みに関与する農民団体の支援も行います。

詳しくは、下記にお問い合わせください。

United Nations Development Programme
One United Nations Plaza
New York, NY 10017
robert.juhkam@undp.org
+1 212 906 6376
www.undp.org/ebola

2014年11月



Empowered lives.
Resilient nations.